

# 令和7年度 日田もりビジョン推進検討委員会 議事録

日 時 令和7年11月18日(火)10時～11時20分

場 所 日田市役所 7階中会議室

## 次 第

1. 開会
2. 委員紹介(変更があった方のみ)
3. 委員長あいさつ
4. 議題
  - (1) 日田もりビジョンの取組状況について 別添資料
    - ・取組実績、施策体系別目標値など
5. その他

### 1. 開会

### 2. 委員紹介(変更があった方のみ)

- ・穴井委員(日田地区原木市場協同組合業務委員長)
- 石田委員(大分県西部振興局農山村振興部部长)
- 中山委員(日田市農林商工部長)

### 3. 委員長あいさつ

### 4. 議題

#### (1) 日田もりビジョンの取組状況について

(委員長)

それでは、早速、次第に従い議題の(1)日田もりビジョンの取組状況について、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

日田もりビジョンの取組状況について説明〔省略〕

(委員長)

幅広い取組がなされています。幅広い取組の中で分からないこととか、こういう取組は少し縮小していいんじゃないかとか、こういう取組をもっと力をいれたらどうでしょうかとか、

そういうご意見があればお願いします。

**(委員)**

資料4 ページ目の鳥獣被害防止対策、これは、重点施策にはなっていないのはなぜですか。また、東北の方でクマが問題になっていますが、こちらでは、イノシシとシカだと思えます。被害というのは増えてきているのか教えてください。

**(事務局)**

重点施策についてですが、この計画をつくった当初、こういったことを重点施策として進めましょうと、例えば日田もりビジョン 44 ページの「災害に強い森林づくり」や 47 ページの「資源・技術・雇用の循環を目指した主伐・再造林の推進」というようなかたちで、この重点施策に書いているものを、こちらの重点施策としてあげており、基本的にこの計画とマッチした表記にしています。どれも大切な事業ではありますが、この計画に合わせた時の重点施策ということです。

有害鳥獣の被害額は、日田市では過去 5~6 年の推移では、少しずつ減少の傾向になっています。ただ、ここ最近、よく被害が増えたという声もきいていますが、今後はどういった推移になるかは、毎年の集計をみてからになります。令和 6 年度までの実績では、減少で推移をしています。

**(委員長)**

ほかにありますか。

**(委員)**

このところいろんなチャレンジをしており、原木の輸出の手伝いであるとか、今回は、皆さんのお力をいただき、小学校の机・椅子の開発、そして提供ということ家具工業会としてやっています。この資料の中で、用途拡大の部分で欠けているのではとの思いがひとつあります。それは、スギに関していえば、スギというのは根っこもあれば、柱もあれば、葉っぱもあります。今、使っているのは、柱の部分はどう使うかということが主体となっているんですが、これから取り組んでいくのが化学の分野です。ひとつは、スギの葉っぱの用途拡大というのが必要になってくると思います。スギの原木が今、1 万 5 千円くらいだと思いますが、スギの葉っぱあたりをキロ 20 円くらいで売るとしてら、トンにしたら 2 万円になります。ということは、ほぼほぼスギの本体価格と変わらないくらいになることもできるのではないかという思いでやっています。

試しに、私の方で作っている入浴剤みたいなものを持ってきたのですが、袋にかえれば、お茶の葉にすることもできるというものをこの中に入れて用途拡大の中のひとつの指標としてぜひやっていただきたい。そうすることで、1 本の木が 1 万円が 2 万円、2 万円が 3 万円になってきます。そういったところも、ビジョンの中に今後の取組としてぜひお願いしたい。

#### (委員長)

葉っぱについては私も承知をしております、市内の企業の方が、化粧品になるとか、乳液になるとか、そういう葉っぱの用途いろいろについて、経済的効果もあるというようなことをずっと聞いていました。そうですかというところで終わっているのですが、そういうところで知識というかそういうものがあるでしょうか。

#### (事務局)

委員からは以前から、葉っぱの利用とか化粧品だったりアロマみたいなもの、そういった従来からの木材の利用以外で、イメージ的には、スモールビジネスの拡大であろうと思います。葉っぱそのものの性質みたいなものの知識は我々はありませんが、木材を余すところなく使うというのは、このビジョンの考え方の中のひとつだろうと思います。

ただ、行政側が何かできるかなといった時、研究開発とかそういったものを後押しする、ただ、この場合に、やはり皆さん方のお力を借りたいのは、ビジネスとして販路に乗せていくところは行政ではなかなかできないので、そういう部分は官と民が一緒になったところでの取組でないと成り立っていかないのかなと思っています。

委員が言われたとおり、こういった、今まで誰もやってないとか、もしくは、ビジネスとしての隙間産業みたいなものは、我々もそういった部分には目を向けていきたいと思っていますが、どういったふうに立ち回っていけばいいのかということも我々もまだ認識不足ということもありますので、そのあたりは一緒になっている議論をしながら、やっていければいいかなと思っています。

#### (委員)

今、動こうとしているのは、お茶の方に関しては、まず、焼酎メーカーにもって行って、松の葉のアルコールがあったりするので、それを例えばスギ焼酎にするとか、それから、今、私を作っているのはお風呂に入れるもので、とにかく入り口を広くして、誰でもできるようなものから始めて行って、それから用途拡大にいくという方法でやっていこうかなと思っています。また、スギの葉っぱをクラフトビールに入れて、スギの葉ビールとかできないかなと思っています。ただし、皆さんの中でこれもあれもあるんじゃないというのがあれば、垣根は低く、入り口も広くしたいので、ぜひ、いろんなところで、特に林工の生徒さんとか、演習林にいった、スギの葉っぱをひとかたげずつくらい持って帰ってもらって、お茶の葉とか試してやってみるとか、是非やらせてもらえるといいかなと。それがもし売れるのであれば、非常に付加価値のあるものになってくるので、是非それをお願いしたいと思っています。

#### (委員)

大山に既に杉コーラを商品化している方がいます。スギの葉の成分がコーラのスカットとする感じと結構マッチしています。東大山のお店でも飲めます。成分から行って、お茶とか、入浴剤とか、化粧品とかの用途が考えられると思います。

**(事務局)**

我々も何ができるか考えた時、行政は例えばそういった新しいものを開発するとか、高校生の取組の中に、少し接点を持たせるとか、そういった取組のストーリー性みたいなものがあると、皆さんの注目を浴びるし、高校生にとっても新鮮さが生まれテーマとしては非常に面白いと思います。

あとは、マスコミ向けに行政から発信する際に必要になってくるのが、誰が、どのようなかたちで開発したかみたいなものが、周りの人たちの興味関心を高める部分だろうと思います。そういった取組をいろんな、学校だったりとか事業体だったりとかそういったところと繋がって取り組むということで、もうひとつ一歩前に入る取組になるのではないかと思います。

**(委員長)**

次に何かありますか。

**(委員)**

我々は、造林の担い手を育成するという「ひた森の担い手づくり推進事業」をやっています。その中で、昨年度3名の方が新人で入っており、自分で起業して雇用しながらやっていくという方が1名出ています。今年も新人で3名の方がそれでやっていきたいということで話をしているところですが、地元の方というより近隣の方のほうが一生懸命やっている方がたくさんおられます。講演会や研修会をしながら新しい方の募集をやっているのですが、応募で来るのが20人いた場合に15~6人は市外の方ということで、みなさんしっかりやってもらっています。原木協としては年間70万㎡の取り扱いをしていますが、そのうち30万㎡が市内の木材ということで、市外の方も集まってこないと市場の仕事がなりたたないの、裾野を広くして、福岡、宮崎、熊本、県内はもちろん、しっかり裾野を広げてやってきたいということで、市の森林環境譲与税を財源に事業をやっています。この事業に参加される方は、市内に移住をして、日田でやっていきたいという方も何人かいますので、今後もそういう活動に対して市の支援の継続をお願いしたいところです。

**(事務局)**

ひた森の担い手づくり協議会の人材育成は、令和5年度の途中から始まって、3年が終わったところです。協議会を原木協の中につくってもらい、取組として成功だと思っています。まだこれからの部分もありますが、注目度とか、これまで林業に興味がなかった人、林業に興味はあるけど仕事として取り組んでいない人たちが協議会の行う勉強会とか講演会とか、現場実習とかに着実に参加をいただいています。来年度以降もまだまだ必要な部分だろうと思っていますので支援は視野に入れていきます。

**(委員長)**

数年前に、県の農林水産の委員長をしたことがあって、名古屋から大分に来た女性が、すごく熱心で、トマトを成功させて県が補助金を出すということで、かえってよそから来た人の方

が熱心で、一生懸命やるんです。そういうことが担い手づくりでも起こり得るだろうし、日田は300年の林業地ですが、そういうふうによそから来た人たち、林工の生徒さんでも、そんな人たちから地元が学ぶという姿勢も大事かもしれない。それがイノベーションになって、先ほど委員が言ったああいう事業に結びついていくかもしれない、そういうのは、我々民間が考えていくことで、それを市に投げかけていく、県の林業研究部にお願いして試験するとかいうのが、一番理想的なものではないかと考えています。

貴重な意見ありがとうございました。ほかにありますか。

#### (委員)

日田もりビジョンの中でも担い手の確保育成ということで、山仕事の就業促進事業の中で、ひた森の担い手づくりのほうで支援していますが、そこで造林事業者を確保して、育成方法も順調に進んでいると思います。そういう事業が進んでいますが、やはり日田全体をみても到底足りなくなってくると思います。私どもも、従業員が足りないのので、求人を出していますが、なかなかいなく、その間にも従業員も高齢になってきて、外国人労働者の雇い入れを準備をしているところですが、林業でも、製材の方でもフォークリフトとか、刈払い機、チェーンソーの取扱いとか、資格が必要です。しかし、外国人労働者で日本語が堪能な人はそう多くなくて言葉が理解できない。そうなると、資格を受けるのが困難です。例えば、フォークリフトでは、熊本の菊池の方に行けば、ネパール語で対応できるところもあるのですが、そこに申し込んでいても、ある程度的人数が集まらなると研修ができない、資格が取れない。申し込んで6か月くらいになります、いまだに何も言ってこない。フォークリフトだけでなく、チェーンソー、刈払い機でも対応ができていないのではないか、そのあたりがどうなっているかと思っています。

#### (委員長)

外国人労働者は日田にもだいぶ来ています、特に製材業とか。その就労について、何か市でできること、たとえば研修会なりそういう計画とか、今、あるのか、ないのかだけで結構です。

#### (事務局)

林業の技能実習生が正式に日本に入ってもらえるようになった中で、市内の事業者で今年中に2名の方が技能実習生としてくることは聞いています。その方たちについても、県の造林のOJT研修が受けられないかという相談がある中で、県とも協議して補助対象になるとの判断になりました。また、技能実習生を受け入れる際に、管理団体を通して日本に入りますが、その事業者が関わる管理団体の話では、今回はインドネシアの方が来ますが、インドネシアで事前に日本の制度にマッチしたチェーンソーの技能講習を受けることができるとの情報もありました。先日の新聞報道もありましたが、県内をはじめ林業の技能実習生の方が正式に日本に入ってくるなかで、いろんな取組が行われていますので、そういった情報の整理をしながら、市として提供できるようなものがあれば、県とも連携して提供していきたいと思っています。我々も情報が不足しているところもありますが、可能な限り情報を集めたいと考えています。

**(委員長)**

ありがとうございました、  
林工からの意見、報告等があればお願いします。

**(委員)**

現在の状況ですが、本年度より全国募集で延岡から1名入学しました。その兄弟も、自分も林工に来ようかと話しているとも聞いています。とはいえ、地元の中学生を一番に大事にしていきながら、しっかりと本校をPRしていきたいと思えます。

先般、インターンシップで2年生対象に官公庁も含め13の受け入れ先の協力をいただいて実施をしたところです。色々な面でご協力をいただいています。また、約80ヘクタールほどの演習林がありますが、水害によって道路が寸断されていて、ここ2~3年行けてないのですが、日田市を中心に復旧に取り組んでいただいております。また、それに代わる実習も市有林や一部民間の山林等を活用させてもらいながら、生徒の実習にあたっているところです。

進路については、今年度は3年生が22名で、専門の職種・業種に関しては5割ほど就職しています。内訳については、素材生産や家具製作、製紙業、そういったところで、また、1名はおおいた林業アカデミーを希望しています。それから、公務員も、国、県の結果を待っている状況です。

できれば、地元にと考えているところですが、なかなかこちらの意図するところの結果にならないところもあり、期待に沿えずに申し訳ないと考えているところですが、現2年生については、市内で色々な研修の場とか見学の場とか提供いただいております。現2年生、1年生については林業・林産業に興味を持っている生徒が多い印象を受けており、来年度以降そういったところで地元に残していきたいと考えています。今後とも引き続き協力をお願いします。

**(委員長)**

私たちが、林工の生徒の全国募集の運動をした時に演習林があるところは少ないと、そういうことで全国募集の運動をしました。演習林の復旧については、市も頑張って早期の復旧に取り組み、生徒が演習林で十分勉強できるような体制にしていきたいと思います。

**(委員)**

建築士会ではいろいろな事業を前からやっていますが、建築相談会とか技能大会では、子ども向けに段ボールの家をつくってデコレーションするとか、木と暮らしのフェアでは、折り紙建築をやっています。住宅セミナーとかでは、市民の方の家づくりのサポートができたらの思いでやっていますが、どうしても建築士会だけでは、多くの人を集めるのは難しく、木と暮らしのフェアみたいに、市民の方がいろんなきっかけで来てくれるものに参加するとたくさん来てくださり、そのような会を市の方でも続けてもらい、私たちも参加させてもらえればと思っています。

#### (委員)

5 ページのシカの農林産物の被害額は前々から林の被害が入っているのだろうかと思っています。これは市だけでなく、県も同じ取りまとめをしておきおかしいと感じています。1ヘクタール植えるのに100万円くらいかかりますが、植えたあとシカが8割食べてしまえば2割しか残らず、80万円の被害です。5～600万円の被害というのはあり得ないと思っています。どこかで、市だけでなく県も含めて考えてもらわないといけません。1年間に市内で二百数十ヘクタールは植えられていると思いますので、その山の被害だけをみても、この10倍近い金額になる可能性があるのではなかろうかと思っています。これはどこかで見直さないといけないということは、県も含めて考えていただきたいと思っています。

もうひとつは、8ページの小中学校の机椅子の更新事業、これは大変いい事業で、こういうかたちで学校が木の机・椅子になっていくのはありがたいことですが、前々から言っているのですが、この机を全国で使っていただきたいと、環境税は全国で600億円配分されていますが、山の無い市町村がたくさんあります。そこはどういうふうに環境税を使うか考えていると思うので、この木を使った机を使ってもらえとうちの環境税は全く使わず、そちらの環境税を活用することができる。そこで、小中学校の机・椅子の関係は、日田以外からどのくらい問い合わせがあるのか聞きたいと思っています。

#### (委員長)

シカの被害から回答をお願いします。

#### (事務局)

この数字の中に森林の植栽の被害とかは入っていないわけではないのですが、数字的には僅かです。農産物被害が積み上げの中では多いので、林業の被害の割合は少なくなっています。

ただ、被害額については、県が押しなべて同じルールのもとで積み上げているので、日田市だけ金額の算定方法を変えるということは、なかなか難しいかもしれません。県とも相談しながら林業被害の反映をどうしていくかを相談しながら考えていきたい。今、即答ができないので申し訳ありません。

それから、机・椅子の関係は我々も、もともとの発想は地域で開発した机・椅子がいろんな都市部で展開されていくことができればいいなという思いがありました。問い合わせは結構ありますが、具体的には、添田町の学校の建て替えに合わせて机・椅子を入れました。このケースは、日田からの材を使って机・椅子を導入していただきました。ほかにも問い合わせはあります。机・椅子を開発したデザインとかスキームみたいなもの、これは、この製品を作った時、日田家具工業会が実用新案の登録をしておりますので、そういった意味では日田家具工業会のオリジナルの製品と考えていただいているのですが、ただ、作り方とかスキームは真似しているよと言っております。ですから、いろんな都市で、いろんな地産地消、例えば東京なら東京の木材を使ってこの机・椅子を使ってくださいという、そういうプレゼンを行っておりますので、そういった意味では、日田市に都会のお金がやってくるかというところまではつながって

おりません。

**(委員)**

いくつか話をいただいている実態があり、フレームはどこで作っているのか、木材に関しては自分たちのところでやっけていいか、という問い合わせをいただいている状態で、市に何らかのかたちで恩恵が出てくるかということに関しては、日田家具工業会に製造、販売に関しても委託をするという話は添田町以外では今のところ来ていないという状況です。

それ以外の話としては福岡県内の市町村からいくつかあり、今後出てくるであろうと推測はしています。逆に問題点としては、アイデアだけを持って行って、さも自分のところで作っていますよというような話をしてマスコミなんかに掲載してやっているようなところも出てきているのも事実です。この辺をどのように家具工業会、日田家具衆としてやっけていくかということを検討しているところです。

**(委員長)**

まだまだ意見を聞きたいところですが、時間の関係でこのあたりで締めたいと思います。最後に総評をお願いします。

**(委員)**

先日の森林環境譲与税の会議の時も言いましたが、かなり幅広く川上・川中・川下と網羅しているんな事業を考えているのが、まず印象でした。日田市林業振興課の方々が一生懸命考えた事業だと思います。先ほどもいろいろ話が出たように担い手問題が出てくる中で、いろんな分野がある中ですが、強弱をつけてもらえればというのがひとつあるのと、先日、スマート林業の研修を日田市にさせていただきました。県でもスマート林業の事業をしており、担い手の確保と、省力化という観点で日田市と一緒に取り組んでいきたいのでこれからもご協力をお願いします。

**(委員)**

皆さん方の議論を聞く中でどの分野も共通ですが、担い手の確保、人手不足が今後課題になってくると思っています。林業従事者の新規就業者数の目標もあるのですが、今日、新聞報道にもありましたが、インドネシアから製材所に5人来ました。林業にプラスその川下といいますか、製材業などでも人手不足というのが出てくると思いますので、林業分野だけでなく、広く人手確保の事業についてもやっけていく必要があると感じたところです。

それと、もう1点報告ですが、先週、国交省に中津日田道路と中津港の整備促進の要望に行きました。中津港ですが、大きく3つあり、ひとつは中津日田道路と中津港が整備されることによって自動車産業の企業誘致に繋がらないか。クルーズ船をどんどん呼んで引き込もうという動きがあり、そういう事に関しての観光誘客に繋げていく。それからもうひとつは、原木の輸出で、日田の原木の輸出は、中津港から行っておりますが、年々取扱量は増えてきており、原木の輸出については岸壁が満杯状態であるということから更に整備をしてほしいというこ

とで中津市と一緒に要望をしてきたところでは。そういった動きをしていることを知っておいていただければと思っています。

(委員長)

以上で、終わらせていただき、事務局にお返しします。

(事務局)

課長のお礼のあいさつ

令和7年度日田もリビジョン推進検討委員会委員名簿

任期：R6.10.30 (R7.11.18) ~R8.3.31

No	所 属	役 職	氏 名	備 考
1	大分県林業経営者協会	会員	長 哲也	
2	日田市森林組合	専務	和田 正明	
3	日田木材協同組合	製品共販課長	宮崎 桂一	
4	日田地区原木市場協同組合	業務委員長	穴井 治樹	(変更) (代理)穴井浩司
5	大分森林インストラクター会	会員	河津 文昭	
6	大分県建築士会日田支部	支部役員	澤熊 祐子	
7	株式会社トライ・ウッド	常務	古川 和博	
8	協同組合日田家具工業会	事務局長	上部 和彦	(代理)青柳有治
9	日田林工高等学校	林業科主任	後藤 英次郎	
10	大分県西部振興局農山村振興部	部長	石田 陽一	(変更)
11	日田市農林商工部	部長	中山 敏章	(変更)

事務局：林業振興課